

道徳科学習指導案

指導者	T 1	吉岡 慶佑
	T 2	重森恵美子

1 日 時 令和5年12月15日（金）5校時

2 学 年 第5学年（10名）

3 主題名 「真の友情」 [B 友情, 信頼]

4 ねらい

正一の真の友情に触れた「ぼく」の気持ちの変化について考えることを通し、相手を信じることや理解しようとすることの大切さを理解し、よりよい友達関係を築こうとする心情を養う。

5 教材名 「友のしょうぞう画」
（「小学道徳 生きる力5」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目[B 友情, 信頼]「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「友達と仲よくし、助け合うこと。」、第3学年及び第4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」からつながるものである。

人間は自分の利害で友達を選びがちだが、それではお互いの理解や交流もあまり深まらず、真の友情は育たない。困っている友達や弱い立場にある友達に対しては、その友達の立場になり、お互いに理解し合い、励まし合い、支え合い、さらには学び合うときに、信頼関係が生まれ、真の友情も芽生えてくるものである。これらのことを自覚し伸ばしていくためにこの主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材の主人公「ぼく」と幼馴染でよく遊んでいた正一が難病になり、九州の療養所に入院することになった。離れ離れになってしまったが、文通を始め友情を深め、励まし合った。ところが、正一からだんだん手紙が来なくなり、二人は音信不通になってしまう。そんなある日、作品展で正一の作品と解説を見て、正一は動かなくなっていく手で一年をかけて「ぼく」の肖像画を彫っていたとわかる。安心する一方で、正一から手紙が来なくなったことに、不安や疑念を抱いてしまったことに対する後悔や反省の気持ちを抱き、また手紙を書こうと決心する。「ぼく」の揺れ動く気持ちを考えることを通して、友情には相手を「信じること」、「理解しようとすること」が必要であり、「相手を信じ続けるこ

と」の大切さを理解することで、よりよい友達関係を築こうとする心情を養うことができる教材である。

指導に当たっては、児童が対話を通して考えを深めていけるよう、次の４点に留意しながら指導を行う。

- ①展開前段では、「正一から手紙が来なくなったとき、『ぼく』はどんなことを考えていたでしょう。」と問い、手紙が来なくなり正一との友達関係に不安や疑問を抱いている「ぼく」の心の内を考えさせる。
- ②中心発問では、「『友のしょうぞう画』と解説を見て、涙を流しているとき、『ぼく』はどんなことを思っていたのだろう。」と問う。涙を流すほど感動し、さらに友情を深めていこうとする「ぼく」の気持ちに共感させる。また、グループで考えの共通点を話し合うことで、「真の友情」に大切なものに繋げる。教師は机間指導を行い、グループでの話し合いの支援を行ったり、全体交流に向け児童の考えや発言を把握したりする。
- ③次に、「帰りの電車の中で、和也はどんな思いから手紙を書こうと思ったのだろう。」と伝え友達を信じることや理解しようとするものの大切さに繋げる。
- ④終末には、導入時の課題「『真の友情』に大切なものは何だろう。」を再度提示し、授業を通して考えたことを一人一人道徳ノートにまとめ、振り返らせる。その後、「『友情』と聞いて、どんなことを想像しますか。」とアンケートを取り、授業の前後での考え方の変化を取り上げる。

7 準備物

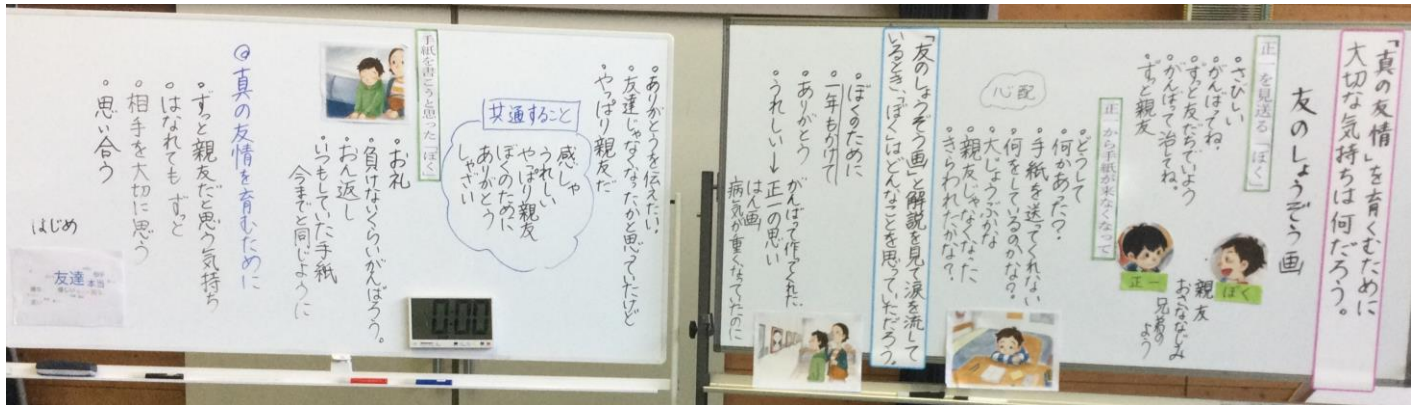
・教科書の挿絵、短冊、クロームブック、AI テキストマイニング

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点 ●学習評価 ☆授業評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○「真の友情」とは何だろう。 ・仲が良い。 ・いつも一緒にいる。 ・声をかけてくれる。 ・本当の友達	発問	板書	○友情という言葉は全員が知っているが、改めて提示することで友情に対するイメージを共有し、課題につなげる。
		「真の友情」を育むために大切な気持ちは何だろう。			

	3 自分の生活を振り返る。	○帰りの電車の中で、和也はどんな思いから手紙を書こうと思ったのだろう。 ・手紙を書かなくてごめんね。また一緒に遊ぼうね。 ・正一の病気が早く良くなるように願っているよ。 ・離れていても、いつまでも友達だよ。	発問 机間指導	板書 机間指導	(発言) ○正一に対する和也の思いを想像することで、友達を理解し、信じ続けようとするものの大切さに気付かせる。
		○「真の友情」を育むために大切な気持ちは何だろう。 ・信じ合えるように相手を大切にすること。 ・相手のためになることを考えて行動すること。 ・相手を信じ続けること。 ・相手を理解しようとする	発問 机間指導	板書 机間指導	【キーワード】 ・相手を理解する。 ・相手を思った行動をする。 ・相手を信じ続ける。
終末 (9分)	4 学習の振り返りをする。	○「真の友情」について今日の学習を振り返りましょう。 ・AI テキストマイニング ・道徳ノートへの振り返り	発問 机間指導	机間指導	○授業前後の考えを比較させることで、自分の考えの深まりに気付かせる。 ○今日の学習で分かったこと、これからの生活に生かそうと思うことについて振り返らせる。 ●真の友情に気付き、これからの自分の生活に生かそうとしている。 (道徳ノート)

9 板書



10 成果と課題

- 「ぼく」の気持ちを考えさせることで、離れていてもずっと思い続けることが大切だと気づかせることができた。
- 友情は、一方的な感情ではなく、思い合うことが大切だと考えさせることができた。
- 高学年で考えさせるべき真の友情まで児童の考えが深まらなかった。最初設定した課題で深まらない場合、後半で新たな課題が必要になる場合がある。
- 正一の側から考えさせることで、別の面からの友情観を考えさせることができるのではないと思う。

11 今後に向けて

- ・児童に考えさせるべき言葉がでたときは、しっかり切り返せるように時間配分を含めて準備をしておく。
- ・主題分析図で分析したことを、ぶれることなく指導案に落とし込んでいるかに気をつけながら、指導案を作成していく。